ことぶき新報

第 314 号 2019 年　10 月 10 日発行
出雲市塩冶有原町 1-50
社会福祉法人ことぶき福祉会『ことぶき園』
　発行責任者：山根広美
Tel　：（0853）31 - 9900
Fax：（0853）31 - 9901

先日、夕涼み会を企画し、家族の方も多く参加されました。週末のお忙しい中、参加いただきありがとうございました。

会が始まる 30 分前から蕎麦打ちが始まり、昔からよく家で蕎麦を打っておられた利用者さんと一緒に作りました。慣れた手つきで、こねたり、伸ばしたりで出来上がりました。また、「お寿司が食べたい」という利用者さんの声から職員手作りの握り寿司を用意し、みんなで一緒に話をしながら食べ、家庭的な雰囲気でとても和やかな時間となりました。

その中で普段は聞けない話、やりとりもありました。S さんはいつもニコニコと優しい方ですが、3 人おられるお孫さんの一番上の方には厳しくしつけをされていたそうです。H さんの娘さんは煮物を食べられ「美味しい。どうやって味付けしているの？」と料理の話で盛り上がりました。また I さんは息子さんを「私の大事な息子です。どうかよろしくお願いします。」と皆さんに紹介されました。周りの方も顔見知りではありますが、改めてあいさつを交わされていました。大勢での賑やかな食事のおかげか、普段食が少ない方もいつにも増して沢山食べられました。

私達職員ができる事は限られていますが、こういう機会をできるだけ多く作り家族の方と協力しながら【安心して過ごせることぶき園】になるよう日々勤めていきたいと思います。

誰もが望む老人ホームづくり第一章
【社会福祉の原点と「地域密着」の意義】を読んで

社会福祉の原点は、様々な形で生活に困った人たちを無条件に受け止めることである。当初は公の力でやってきたものは少なく、お金のない中で民間の先人達が苦労しながら取り組み、やがてバイキング食やオムツの随時交換など人権の尊重や人間の尊厳が根底にあるケアが生まれてきた。どんなケア、どんなサービスが大切か、どれも人の命や生活を大切にするということから始まっている。これらは現場にいた先人たちの工夫により生まれたサービスである。

1987 年に小規模多機能型施設ことぶき園が、お年寄りの状態や家族の状況から、必要なケアを必要なほど行うこと、又、人里離れた場所ではなく、生まれ育った場所で地域密着を目指し制度にない中誕生した。一人ひとりに応じた柔軟な対応が 365 日・24 時間必要な時に受けられる。日常的に生活をしている地域社会でサービスを利用することができる。これらはとても大切なことだと感じた。

歴代のことぶき新報を読む機会があり、そこには近所にあるからと毎日夕食の介助に自転車で来られる方がいたり、近所の子どもたちが気軽に遊びにやって来た事などが書かれていました。今でも近所の方が採れた野菜や花を届けられたり、歩いていると気軽に声をかけて下さいます。それはとても自然で素敵な事だと日々感じています。自立ができる周囲の条件・環境を作る支援をし、地域密着を活かしながらこれまでの生活が継続できるように取り組んでいきたいと思います。

今月 20 日（日）には運動会を予定しています。
お忙しいとは思いますが、ご家族・ご兄弟お誘い合わせのうえ
奮ってご参加下さい。